

2021年(R3年)

6月

No. 351

ひとはつしん

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福祉会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

今年の梅雨入りは例年になく早く、5月半ばから雨が降る日が続きます。ひとはの周辺は、6月に入るとブルーベリーの深紫の実が輝き始めます。みなさんいかがお過ごしでしょうか。

コロナ感染拡大が続く先が見えない状態の中「ひとはガーデン」の整備は一步一步進んでいます。それもそのはず、雨が降る日以外は休むことなく作業を進めているきららがいるからです。その一人がひとは農園の垣野内秀人さん。一輪車にスコップで真砂土や砂利を盛り、乗せて運んだ回数はお数えきれません。4月にはガーデンとブルーベリー園の間に垣野内さんの手で作られた道ができ、その道を「垣さんロード」と名付けました。背筋をまっすぐ伸ばし一輪車を引く姿は、凛としてカッコイイのです。その姿を見かけると「垣さん! 今日もやってるね、がんばるね」と声をかけます。すると返ってくる返事はいつも「は、は、は」と寒い時も暑い時も「は、は、は」と答えながら働く姿は、誰よりも男前なのです。

「笑って生きれば笑って死ねる」という落語家さんが書いた本が目にとまり、読み進めると心が軽くなりました。コロナ禍の中、どうにもならないことで気が滅入ることもあります。そんな時だからこそ「は、は、は」と笑って自分の仕事をする垣さんを見習いたいと思います。

(ひとは工房 伊藤千代子)



自治会きららへインタビュー

門田尚子さん

去年のアートまつり(向原町長田やすらぎにて開催予定だった)で、



絵がポスターになったことが嬉しかった。将来の夢はアートの個展を開くこと。船、風景、果物を描くのが好き。仕事はあふですとおかきを作っている。

ひとはを利用するみなさんに、仕事のことや最近嬉しかったことなどインタビューしていきます。

黒瀬瑞希さん

白と掃除をしている。しんさんや加納さん、三上潤子さんと。配達行ったり、

ジュース(補充)したり。休憩時間に奥田健二さんと歩いたり、体操したりしたい。白と仲良くしたい。



ひとはの商品紹介

くじらのおいしおあいす

安佐北区白木町の白木の郷で加エされた「くじらのおいしお」を使ったあいす。天然塩とひとは館のミルクベースのあいすが合わせり、素材の旨みを引き出された味わいです。

「塩とあいすがこんなに合うとは!!」

7月前後からは夏季限定の野いちごとマンゴーのシャーベットをお楽しみいただけます。

店舗販売のみ

生の友達に



改訂版

ひとときつての気配り上手片山さんは、接客などは堂に入ったものです。ですから、結構地域にも話し相手がいるように思っていました。彼の地域での情報量は大したもので、ひととは来ると色々なことを教えてくれます。「ええのう。片山さんは物知りで、友達がえつとおつて。」と羨ましそうに言ううと、うなずきながらも「うん。ほいでもワシの話を聞いてくれる友達がおらんものよ。」と言います。なるほど、片山さんは家族や井戸端会議の傍で、聞き耳を立て、いろいろな情報を彼なりにつかんで来ては、私たちに教えてくれました。しかし、なかなか話し合いをする機会はなかったようです。「そりゃあ、ワシらに話をすればいいじゃない。いろんなことを話し合おうや。」と言うと、「ほんなら、ワシの一生の友達になつてくれる？ 定年までおるけん。」

語り継ぎたいこと

一生の友達とは、お互いに寄り添える関係が必要でしょう。片山さんにとつて、いや誰にでも言えることかもしれないませんが、必要なのは、職員ではなく、一生の友達です。

なごめる？

「一本のスポン」

「赤」「だいたいと思う」「茶色」「みかん色」「オレンジよね」これは、一本のスポンの色を聞いた時のことです。法改正のきっかけにより、製造室内において器具の色や型、大きさなどを改めて聞くと、きららの見え方が違っていることに驚き、みんなわかっていると決めつけていた自分に反省するところも。わからないから、できないからいいのではなく、一人一人の意見を尊重できるように考えていきたいと思っています。

(就労センターあぷ 長岡逸子)

「時を経て」

学生時代から仲の悪かったという黒田さんと政本さんは、顔を合わせるたびにいがみ合っていました。ところが、ある日を境に挨拶をするようになり、今では連絡先を交換するまでに。黒田さんにきっかけを聞いてみると「喧嘩しとるの、大人じゃないやと思っ」とのこと。二人が笑い合っているのを見て、仲間という言葉の深さを知ることができました。アグリサポートで一線に汗をかきながら、これからも周りの仲間との輪が広がることを願います。

(就労センターあぷ 田端直哉)

「ペットボトルと年賀状」

半年前、ペットボトルの分別ができなかった内藤さん。何度かスタッフとやってみても、ラベルがうまくはがせませんでした。ところがある日のこと、高伏さんが内藤さんに「こうやってやるんで！」と丁寧に手本を見せると、教わってからはやる気になり、できるようになっています。

内藤さんから届いた年賀状には「みんなと一緒においしいご飯を食べたいから皆やめなさい！」と願いが書かれていました。西本邸ができて2年。内藤さんと住居人との絆ができてきているのかなと感じます。

(ひとは長屋 立野兵治)

編
集
後
記

先日、くらむぼんを利用する児童を迎えに小学校へ行った時のこと。「こんにちは」と声をかけられ顔をあげると、2年前にくらむぼんを卒業し社会人になったYさんのお母さんだった。「今は一人暮らしをしながら仕事に通って、休みの日にはお友達と遊びに行ったりしているようです」と近況を聞かせてもらった。やりたいこと、興味の持てるものを一緒に探し、経験を重ねていたあの頃のことを思うと、今一人暮らしをしているYさんの成長ぶりには驚かされると同時に、とてもうれしい気持ちになった。いつか再会できたら、Yさんから近況を直接聞いてみたい。

(白井くみこ)